

アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区<ボーイング787等量産事業> (緑地規制の緩和、課税の特例、利子補給金の活用(平成23年度から実施))

特区の主な目標

アメリカのシアトル、フランスのトゥールーズと肩を並べる航空宇宙産業の世界三大拠点の1つへ！！

- アジア最大・最強の航空宇宙産業クラスターを形成し、「技術立国・日本」の成長・発展を牽引
- さらなる企業集積や航空機・宇宙機器の生産機能の拡大・強化を図る

ボーイング787等量産事業イメージ

- 具体的な取組として、規制の特例である「**緑地規制の緩和**」を活用し、工場立地法に係る緑地規制(緑地面積率、環境施設面積率など)を市町村の条例により緩和するほか、「**課税の特例**」や「**利子補給金**」の制度を活用することにより、企業が新規立地・設備投資しやすい環境を整備し、企業集積及び企業の生産機能の拡大・強化を図る。

緑地規制の緩和：既存の敷地を有効活用し、工場等を新增設

課税の特例：設備投資に際し、法人税の特別償却又は税額控除を受ける

利子補給金：設備投資に際し借入を行った場合に、利子補給金の支給を受ける

新規立地・設備投資しやすい環境を整備

企業集積
生産機能
拡大・強化

特区における効果

- ボーイング787をはじめとする国際共同開発航空機の生産に対応できる体制を整備することにより、さらなる企業集積や航空機・宇宙機器の生産機能の拡大・強化を図ることができた。

	緑地規制の緩和	課税の特例	利子補給金
平成29年度の実績	○新たに3市が条例を制定 ○3件(2企業)の活用があった	11法人が活用	3件の活用 (企業と指定金融機関の契約件数)

- 特区の数値目標に大きく貢献 中部地域における航空機・部品の生産高 **平成29年度目標:7,000億円 実績:7,925億円 進捗率113%**